

# 早来消防 100年



事務所兼住宅を含む  
街地の中心地現  
在の大町で木工  
場火災が発生。

夜に早来の市  
年3月、深

昭和26

ました。

となり

真大火

よぶ厚

焼84棟にお

焼き尽くす全

火勢は市街地を

に当たりましたが、

く出動し消火作業

村消防団もいち早

火災が発生、早来

真つ赤に染める

市街地で空を

月、厚真村の

昭和24年11

## 過去の災害と 防災の備え

れも木造の腐朽甚だしく車庫も狭いうえ冬季間にはエンジンの凍結等により、敏速なる消防活動に支障があるので地域住民の間に消防番屋改築の要望が高まり、順次集会所併設の消防会館が建設されました。

め6棟が全焼、厚真村消防団と苦小牧市消防から応援出場を受けました。

昭和29年9月、台風15号来襲(洞爺丸台風)風速30メートルの強風等により村内各地で家屋・農業・林業被害が甚大な大惨事となりました。

昭和30年9月、千歳町市街地の飲食店より出火(千歳大火)の火災では、早来村消防団が応援要請により出動しております。

昭和31年10月、深夜に早来の市街地の中心地現在の大町で病院火災が発生。病棟及び住宅を含め5棟が全焼、焼死者2名、負傷者6名を出す大惨事となり自衛隊及び追分・厚真村消防団の応援出場を受けました。

火災を消すために必要な水(消防水利)を確保し、頻発する火災に備えるため昭和35年頃より鉄筋コンクリート製の防火水槽を設置、昭和45年頃より町の上水道が完成し、消火栓の設置が始められ、順次消防水利の増強が図られました。

## 近代化する消防

昭和46年7月には、早来町、追分町、厚真町、鶴川町、穂別町の5町により胆振東部消防組合が設立され、消火作業すべてを消防団に依存していた時代から、常備職員が出動体制を備える時代へと変わりました。

昭和52年には救急車の寄贈を受け救急業務を開始、水利整備事情も考慮し大型水槽車の導入や消防車の増強及び更新整備を順次行い、消防会館の改築や防災資器材庫が建設されました。その後、救助資器材の整備及び救急の高度化に伴う高規格救急車の配備、救急救命士の養成等がなされました。

また、平成11年には男性の社会でありました早来消防団に女性団員5名が導入されました。

平成18年3月に旧早来町と旧追分町の合併により、それぞれ消防団が統合して新生「安平消防団」が誕生し、団本部には団長、3名の副団長及び10名の女性消防団員、



早来・遠浅・安平に追分1・追分2分団が加わった5分団制の定員140名の大所帯消防団となりました。

毎月の訓練のほか、各家庭や独居老人宅への査察や保育園及び特養施設等の防火訪問など、町民の火災予防に直接する活動も行っております。消防職員は出張所を含め36人で、火災・救急・救助などあらゆる災害に対処するため、機材の整備を行い24時間体制で安平町を守っています。